

第65回新潟癌治療研究会

日時 平成17年7月16日(土)
午後1時40分～7時10分
会場 新潟東映ホテル1F
白鳥の間

I. 一般演題

1 口腔癌細胞に対するグリセロール単独投与による増殖および浸潤能抑制効果の検討

櫻井 賢・岡田 康男・又賀 泉
日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学
第2講座

グリセロールは変異した癌抑制遺伝子 p53 タンパク質の高次構造を元に戻すという化学シャペロン様効果を有する。変異型 p53 の *in vitro* および *in vivo* 実験においてグリセロール処理で放射線と化学療法感受性が増強され、さらに p53 タンパク質の機能が回復し、p53 依存性のアポトーシスが誘導されると報告されている。しかし、これまでグリセロール単独による腫瘍抑制効果について臨床および基礎的報告はない。今回、口腔癌細胞株を用いグリセロール単独投与による増殖アッセイおよび浸潤アッセイの *in vitro* 実験を行った。口腔癌細胞株を各濃度グリセロールで48時間処理し、増殖および浸潤能の抑制効果を比較検討した。結果、各癌細胞はグリセロールの濃度依存的に増殖および浸潤能が有意に抑制された。またグリセロールの腫瘍増殖抑制機序ならびに CDDP 耐性口腔癌に対する効果について実験を行ったので報告した。

2 血管柄付き腓骨皮弁と歯科インプラントによる上顎再建；13年経過した1例

二宮 一智・又賀 泉
日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学
第2講座

上顎歯肉癌に対する切除後の欠損に、血管柄付き腓骨皮弁とインプラントにより機能的再建して以来13年を経過した症例を経験したので報告する。

症例：59歳、女性。上顎歯肉前歯部正中中部扁平上皮癌，T3N0M0 (stage III) に対して、1992年5月 Le-Fort I型に準じ、後方臼歯部歯槽骨温存した上顎部分切除を行った。顎補綴を作製したが機能的に満足できず、同年11月血管柄付き腓骨皮弁を採取し、皮弁は10×8cmと5×4cmの2島皮弁採取して鼻腔上顎洞側と口腔側の両面の軟組織欠損を被覆した。IMZインプラントを4本同時に腓骨中に埋入し、腓骨と残存骨および腓骨骨切り部をTi mini-plateで固定した。上部構造はインプラントと連結したミリングバー上に患者可撤式義歯を作製した。13年を経過した2005年7月、移植腓骨の吸収はほとんど認められず、インプラントの動揺や周囲皮膚の炎症や過形成もない。審美的には顔貌の形態は自然で、機能的にも構音、咀嚼および嚥下機能も良好である。

3 頭頸部がん早期後発転移症例の臨床的検討

小田 陽平・金丸 昌平・船山 昭典
中里 隆之・新美 奏恵・新垣 晋
齊藤 力

新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻顎顔面再建学講座
組織再建口腔外科学分野

頸部リンパ節転移の的確な把握と治療成績向上を目的に、原発巣治療後早期に頸部リンパ節後発転移をきたした症例について検討した。

対象は2003年1月から2004年12月までに当科を初診した未治療頭頸部腫瘍56症例のなかで、N0として手術施行後6ヵ月以内に後発転移が確認された6例(舌4, 上顎歯肉1, 上顎洞1)とし